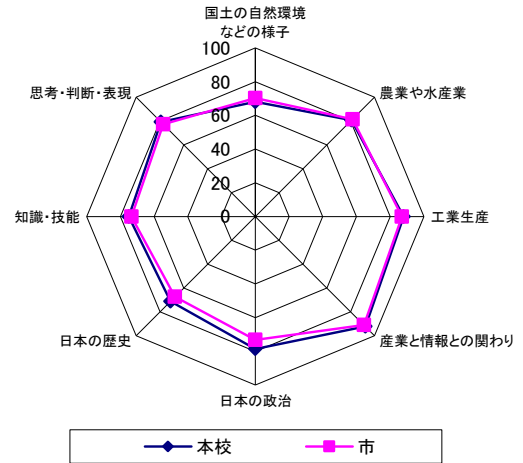


宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.0	70.3	66.4
	農業や水産業	80.8	81.6	75.3
	工業生産	88.0	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	92.3	91.0	81.3
	日本の政治	78.6	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	71.1	67.4	68.5
	知識・技能	75.1	73.5	72.5
	思考・判断・表現	79.3	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、68.0%と市の正答率より低い。 ○日本周辺の海洋名について答える問題の正答率は88.7%で、市の正答率を4.0ポイント上回った。 ●赤道についての理解を問う問題の正答率は62.9%で、市の正答率を4.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳や地球儀などの教材を活用して、地形の名前や赤道などの位置を確認することで、知識の理解と定着を図る。 ・地理的分野の授業に限らず、地図帳を積極的に活用し、用語の意味を適宜確認し、復習する機会を作る。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、80.8%と市の正答率より低い。 ○米の生産が盛んな地域について地図で読み取る問題の正答率は83.5%で、市の正答率とほぼ同じである。 ●魚の出荷作業の工夫についての資料を読み取って判断する問題の正答率は92.8%で、市の正答率を2.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本領域では、資料を読み取り文章で表現したり、判断して解答を選択したりする問題の正答率が低かった。そのため、日頃の授業から地理に関連する資料を読み取り、考えたことを表現する機会を増やす。 ・日本の食糧生産に関する知識は、総合の稲作体験や食育指導などと関連させて学習する。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、88.0%と市の正答率より高い。 ○自動車の製造過程についての理解を問う問題の正答率は89.7%で、市の正答率を1.1ポイント上回った。 ●自動車づくりについて資料をもとに考え選択する問題の正答率は94.8%で、市の正答率を0.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、身近な工業製品や環境保全の取り組みについての話題や資料を提供し、自分の生活と工業を結び付けて考えられるような授業を展開する。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、92.3%と市の正答率より高い。 ○情報の発信について考える問題の正答率は91.8%で、市の正答率を2.8ポイント上回った。 ●近年の自然災害の発生場所の理解を問う問題の正答率は54.6%で、市の正答率を6.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、情報社会の中で育つ子供たちにとって重要な知識やモラルを資料を基に説明したり共に考えたりする授業を展開する。 ・自然災害に関する知識は乏しいことが懸念点である。社会科のみならず、近年のニュースも交えながら防災の重要性について授業で取り扱うようにしていく。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、78.6%と市の正答率より高い。 ○基本的人権の尊重についての理解を問う問題の正答率は80.4%で、市の正答率を11.6ポイント上回った。 ○租税の役割を問う問題の正答率は74.2%で、市の正答率を7.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、実生活をふまえながら、日本国憲法の基本的な考え方を理解させ、憲法と世の中がどのように関わり合っているのかについて考える活動を授業の中で取り入れる。 ・今年度も租税教室を実施したことで、租税に関する理解が深まった。引き続き活用していきたい。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、71.1%と市の正答率より高い。 ○織田信長の業績についての理解を問う問題の正答率は83.5%で、市の正答率を14.8ポイント上回った。 ●鎌倉幕府の政治のしくみを資料から読み取る問題の正答率は56.7%で、市の正答率を3.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各時代の出来事や人々の相互関係に着目させるだけでなく、その時代の背景などから考えさせることで、学習内容とそれまでの歴史を結びつけて考え、表現する授業を展開する。 ・各単元で人物や歴史遺産に着目する授業を実施したことで、人物の業績への理解が深まったので、今後も取り入れる。